

予算要求資料

令和4年度3月補正予算

支出科目 款：農林水産業費 項：水産業費 目：水産業振興費

事業名 スマート水産業導入支援事業費補助金（R5分）

（この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください）

農政部 里川振興課 水産振興室 水産係 電話番号：058-272-1111(内4216)

E-mail：c11428@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 補正要求額 4,000 千円（現計予算額： 0 千円）

<財源内訳>

| 区分 | 事業費 | 財 源 内 訳 | | | | | | | |
|------------|-------|-----------|------------|------------|------------|-----|-----|-----|------------|
| | | 国庫 支出金 | 分担金 負担金 | 使用料 手数料 | 財 産 収 入 | 寄附金 | その他 | 県 債 | 一 般 財 源 |
| 現 計 予算額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 補 正 要求額 | 4,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4,000 |
| 決定額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

2 要求内容

（1）要求の趣旨（現状と課題）

原材料価格の高騰等により養殖魚の生産コストが増加している。また、養殖場において災害による飼育水の停止等が常にリスク要因となっている。これらの課題を解決するため、太陽光発電等を利用したデジタルセンサーや監視カメラを設置し、遠隔監視をすることにより省エネ化・効率化を図ることで支出を抑制し競争力の強化を図る。

（2）事業内容

○IoTを活用したスマート養魚導入支援

・太陽光発電等を利用したデジタルセンサー（水位測定等）や監視カメラなどの省力機器類の導入支援

(3) 県負担・補助率の考え方

○原材料価格の高騰等により養殖業者の経営が厳しい状況の中で強力に事業推進するためにはコロナ対策支援と同等の支援が必要である。

- ・省力機器類の導入支援：補助率2/3

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

| 事業内容 | 金額 | 事業内容の詳細 |
|------|-------|------------|
| 補助金 | 4,000 | 省力機器類の導入支援 |
| 合計 | 4,000 | |

決定額の考え方**4 参考事項****(1) 各種計画での位置づけ**

○ぎふ農業農村基本計画において人口減少下でのスマート農業の展開があげられており、水産業においても同様の課題に対する取組が求められている。

(2) 後年度の財政負担

物価高騰等の影響を見据え、必要に応じて予算要求を行う。

(3) 事業主体及びその妥当性

事業実施主体：県内養殖業者

妥当性：物価高騰の影響により、生産コストが増加している中、省エネ化・省力化機器の導入により、中長期的なコスト低減効果が見込める。

県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

(事業内容)

| | |
|-----------|--|
| 補助事業名 | スマート水産業導入支援事業費補助金 |
| 補助事業者（団体） | 県内養殖業者 (理由) 物価高騰の中、業務の省力化・省エネ化効率化を目指す県内養殖生産者を対象とする。 |
| 補助事業の概要 | (目的) 物価高騰に対応するための業務の省力化・省エネ化 (内容) デジタルセンサー（水位測定）などの作業の省力化・省エネ化機器の導入支援する。 |
| 補助率・補助単価等 | (内容) 機器導入に係る経費の2/3を支援 (理由) 養殖の省エネ化・効率化による生産量の増が期待でき、事業推進につながることができ、県内全域に普及する必要がある。 |
| 補助効果 | 生産コストの抑制による供給能力の向上 |
| 終期の設定 | 終期 令和5年度 (理由) 実証データを基に県内全域に普及する必要がある。 |

(事業目標)

| |
|---|
| <p>・終期までに何をどのような状態にしたいのか 県内養殖業者の半数以上にスマート水産業の導入を図る。</p> |
|---|

(目標の達成度を示す指標と実績)

| 指標名 | 事業開始前 (R3) | R4年度 目標 | 終期目標 (R5) | |
|---------------|---------------|------------|--------------|-----|
| | | | | 達成率 |
| デジタルセンサーの導入者数 | / | 6 | 12 | |

| | | | |
|--------------------|-------|------|------|
| 補助金交付実績 (単位：千円) | H30年度 | R元年度 | R2年度 |
| | / | / | / |

(これまでの取組内容と成果)

| | |
|---------------|---|
| 令和 2 年度 | <ul style="list-style-type: none"> 取組内容と成果を記載してください。 |
| | 指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ % |
| 令和 3 年度 | <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度当初予算にて追加 |
| | 指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ % |
| 令和 4 年度 | <ul style="list-style-type: none"> 令和6年度当初予算にて追加 |
| | 指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ % |

(事業の評価)

| | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない | |
| (評価) 3 | スマート水産業の導入により、省力化・効率化に伴う生産量の増が期待でき、水産振興に寄与するため、県がその取り組むを取り組みを支援する必要がある。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満) | |
| (評価) | |
| <ul style="list-style-type: none"> 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている | |
| (評価) 2 | 里川振興課水産振興室と水産研究所で綿密な連携と情報交換によって、実施方法の効率化が図られている。 |

(今後の課題)

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 事業が直面する課題や改善が必要な事項 <p>養殖業者の高齢化率が上昇しているため、スマート水産業の導入により、技術の見える化、簡易化、数値化を進め、新規に誰でも就業しやすくする必要がある。</p> |
|--|

(次年度の方向性)

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか <p>引き続き、実証データを基に県内全域に普及する必要がある。</p> |
|---|